

研究機関名：東北大学

受付番号：	2011-221
研究課題名	糖尿病における腎動脈狭窄合併が心腎血管イベント発症に及ぼす影響についての検討
研究期間	西暦2011年 9月（倫理委員会承認後）～ 2012年 3月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（データ・診療録・カルテなど）
上記材料の採取期間	西暦 2003年 4月 ～ 2010年 12月
意義、目的	<p>現在、急増し大きな社会問題にもなっている糖尿病患者の予後は不良である。その最大の原因は腎血管イベントの増加であるとされている。糖尿病における腎血管障害の根本的な原因は高血糖、インスリン抵抗性などにあると思われるが、二次的な危険因子として高血圧、腎障害も腎血管イベントに大きく関わっていると思われる。よって糖尿病患者においてはその予後改善のために厳格な血糖コントロール、減量、血圧コントロール、腎保護治療などに努める必要がある。しかしその目標を達成できる例は必ずしも多くない。また治療薬剤も多剤併用例が多く医療経済的にもすべての例で多くの薬剤を投与することは困難である。そこで近未来的に危険が大きい例をスクリーニングしその例に特に重点的に介入、心腎血管治療を実施できれば極めて効率的であり経済的（社会的にも個人的にも）である。近年、そのマーカーとして尿中アルブミン(ACR)や頸動脈内膜中膜複合体肥厚(IMT)などが臨床的に評価されている。特にIMT肥厚（頸動脈狭窄）は血管イベントと予測因子としての有用性が高いとされている。我々は腎動脈狭窄の有無に注目した。その理由として血管障害と腎障害の両方に関連していること、高血圧に密接に関連すること、そして何よりも我々は多くの腎動脈狭窄例に接していて予後が悪いという印象を強く持っていることなどが上げられる。</p> <p>2003年、我々は外来例、入院例いずれにおいても患者の同意を得た上で腎動脈の評価および炎症マーカーの測定を行いその後の死亡、心腎血管イベントも有無を調査してきた。そこで腎動脈狭窄が7年間の腎血管イベントの独立危険因子であることを明らかにする目的で、レトロスペクティブ研究を計画した。</p>
方法	本研究は2003年に東北大学腎高血圧内科でMRI angiographyを施行した糖尿病例200例を対象に、心血管イベントの発生率をレトロスペクティブに調査する。
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学病院腎・高血圧・内分泌科 小川 晋 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町1-1 東北大学病院 腎・高血圧・内分泌科 電話番号 022-717-7163